

# 週間感染症情報

2021年52週～2022年1週 2021年12月27日より2022年1月9日まで

52週1週

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)		
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症		
手足口病	1	
ヘルパンギーナ		
伝染性紅斑	1	2
感染性胃腸炎	23	38
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹		1
伝染性膿痂疹(とびひ)	1	
ヘルペス性口内炎	3	
アデノウイルス感染症		2
RSウイルス感染症	1	4
マイコプラズマ感染症		
ヒトメタニューモウイルス		
インフルエンザ(臨床診断含む)		
インフルエンザ A		
インフルエンザ B		

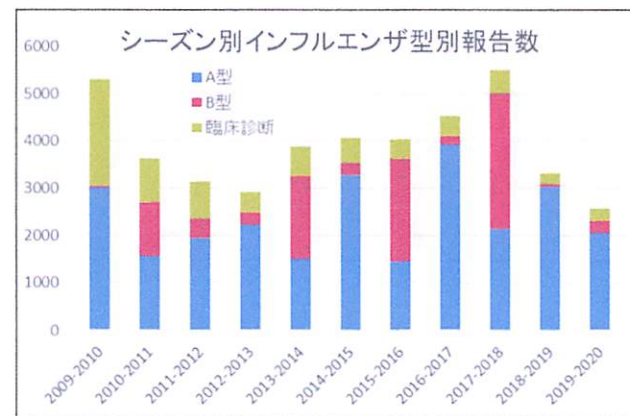
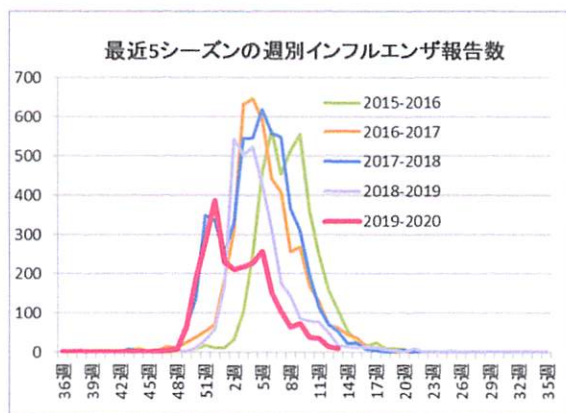
オミクロン株の急速な感染拡大とともに2022年が始まりました。

右下のグラフは吉備医師会の先生方による11シーズンのインフルエンザの報告数です。各シーズン、2571例から5501例ありました。新型コロナウイルス感染症の流行により、2019-2020シーズン10週より市内の幼稚園と小中学校が休園・休校になりました。インフルエンザの流行も3年半ばには終息して、総報告数は最小でした。2020-2021シーズンは報告がなく、2021-2022シーズンは1週までで1例のみです。欧米では、インフルエンザの流行の報告があります。日本では、今後は新型コロナウイルス感染症に対する感染予防対策が今まで以上に行われると思われます。今シーズンもインフルエンザの流行はないと予想します。

小児科外来の患者さんは少ないです。当院では2019年からだと35%位減少しています。

インフルエンザは、発症して1週間で軽快治癒します。新型コロナウイルス感染症は、1週間して2割の方が肺炎を起こして重症化します。ワクチンによる発症予防効果はほとんどないですが、重症化は予防できます。入院患者や死者の多くがワクチン未接種です。ワクチンを接種することができない小児を、周囲でワクチン接種をして守りましょう。

①体調不良の場合は無理せず休む ②密を避ける(換気が大切です) ③不織布マスクを着用する ④手指衛生が大切



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> )